The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	世界肝炎デー　佐賀県における取り組み
Author(s)	井上, 香; 高橋, 宏和
Citation	目で見るWHO. 2025, 91, p. 10-13
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101036
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

世界肝炎デー　佐賀県における取り組み

佐賀大学医学部　地域医療科学教育研究センター /肝疾患センター
井上 香（いのうえ かおり）
佐賀大学医学部医学科卒業。臨床医として経験を積んだ後、2019年から肝疾患センターに着任し、肝炎デーのイベントに携わる。

佐賀大学医学部附属病院　肝疾患センター
センター長・特任教授
高橋 宏和（たかはし ひろかず）
佐賀大学医学部医学科卒業。2016年　同大学　肝臓・糖尿病・内分泌内科　講師、2019年　診療准教授を経て、2020年より現職

佐賀県と肝炎

佐賀県はＢ型・Ｃ型肝炎ウイルスの陽性率が高く、肝がんの粗死亡率（人口１０万人あたりの死亡率）が長年高い水準で推移してきました。1986 年に佐賀県肝疾患対策検討委員会が設置されたことを皮切りに、佐賀県、佐賀県医師会、佐賀大学が一体となり、様々な対策に取り組んできました。

Ｂ型・Ｃ型肝炎ウイルスによる慢性肝炎は、自覚症状が非常に乏しく県民が自ら検査を受けることが重要になります。そこで佐賀県では国の制度に加え、ウイルス検査の無料化、精密検査・治療費・定期検査費用の助成制度がいち早く整備されました。

佐賀県は 2012 年に佐賀大学医学部に肝疾患医療支援学講座を開設し、その後肝疾患センターとなり今日まで活動を続けております。肝疾患センターはウイルス性肝炎対策における受検・受診・受療や予防といった各ステップのアクションをエコサイクルモデル（図 1）として提唱し、かかりつけ医、専門医療機関、健診機関、保健所、自治体、企業、患者会等のステークホルダーと協力し、公開講座や講演会、様々なメディアを通して多角的な啓発活動を行ってきました。このモデルは「佐賀モデル」と呼ばれ、全国的に高い評価をいただいています。

このエコサイクルを実施する上で欠かせないのが「肝炎医療コーディネーター」の存在です。肝炎医療コーディネーター（肝 Co.）とは、肝炎や肝疾患に関する知識を持ち、情報提供や受検・受診勧奨などを行い、患者さんが適切な医療や支援を受けられるようにサポートする方々のことです。患者さんのために医療機関、行政機関、その他さまざまな関係者間の橋渡しを行います。肝 Co. は各都道府県で養成されており、佐賀県では 2011 年から養成研修会を開始し、2023 年度までに総数 2223 名の肝 Co. が任命されています。私たち佐賀大学肝疾患センターは、肝 Co. の養成研修会だけでなく、スキルアップ研修会や啓発資材の共有などを継続的に行い、肝 Co. の皆さんの活動を積極的にサポートしています。

また県内の肝疾患データ分析に基づき、ソーシャルマーケティング手法を応用した肝炎・肝がんの予防や治療に役立つ活動や研究を進め、2014 年からは厚生労働省肝炎等克服政策研究事業にも参画し、佐賀県で開発された肝疾患啓発手法の展開を全国及び国際的に行ってきました。

このような活動が実を結び、佐賀県は 2018 年に肝がん粗死亡率全国ワーストを脱却しました。しかし 2022 年度の粗死亡率は 30.1％と全国ワースト 7 位であり、全国平均の 20.1％と比べると依然高い水準で推移しています（図 2）。その理由として、①肝炎ウイルス検査未受検の方が、働き盛り世代を中心に多数存在すること、②Ｃ型肝炎治療の進歩によりほぼ全例でウイルスを消失させることが出来るようになったものの、治療後に肝がんを発症し、早期発見に至らなかった方の存在、③肝がんの原因として、「メタボ肝がん」とも呼ばれる代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD）が原因と考えられる肝がんが増加傾向してい

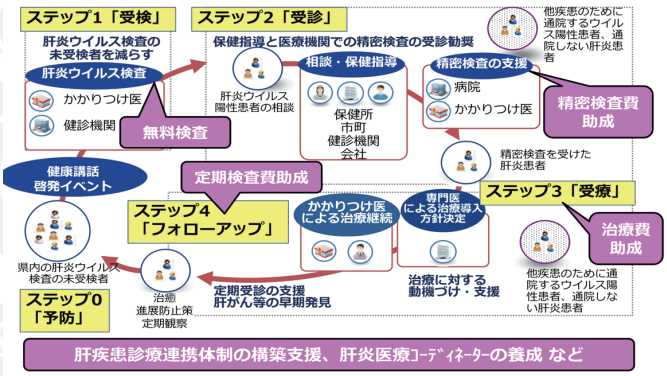
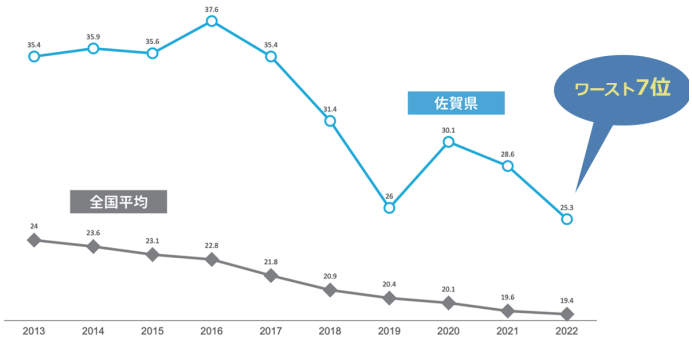


図1　ウイルス肝炎対策におけるエコサイクルモデル



政府統計の総合窓口(e-Stat)（https://www.e-stat.go.jp/）「人口動態調査」を基に佐賀県 健康福祉部 健康福祉政策課 がん撲滅特別対策室が作成

図2　肝がん粗死亡率の推移

佐賀大学医学部附属病院
肝疾患センター
世界肝炎デー活動掲載ページ
https://sagankan.med.saga-u.ac.jp/activities/4791.html

図3　これまでの世界肝炎デー in SAGA

図4　世界肝炎デー 2024 in SAGA　イベントの案内

る、等が考えられます。MASLD は佐賀県民の約 4 人に 1 人と推測されており、今後さらに増加すると予測されます。

私たちはこれからもウイルス性肝炎、MASLD 等を原因とする慢性肝疾患の受検、受診、受療の環境改善を継続して行い、肝がんのない佐賀県を目指していきます。

図5　世界肝炎デー 2024 in SAGA　コラボメニューキャンペーンの案内

World Hepatitis Day

世界保健機関 (WHO) は、2010 年にウイルス性肝炎の蔓延防止と感染者に対する差別偏見の解消を目的に、7 月 28 日を “World Hepatitis Day” (世界肝炎デー) と定めて、肝炎に対する啓蒙活動を世界中に呼び掛けています。日本でもこれに呼応し、2012 年度から 7 月 28 日を「日本肝炎デー」と定め、肝炎ウイルス検査の受検勧奨や新たな感染予防を目的とし、全ての国民に対して予防、治療に係る正しい理解が進むよう普及啓発及び情報提供が行われてきました。

肝炎デーと佐賀県の歩み

佐賀県では日本肝炎デーが提唱された 2012 年以降、佐賀県と肝疾患センターが共催し、13 年連続で肝炎デーイベントを開催しています。佐賀県民を対象とした無料肝炎ウイルス検査や佐賀にゆかりのあるタレントをお招きし、肝臓専門医と共に肝炎や肝疾患について楽しく学べるトークショー等を開催してきました。COVID-19 の感染拡大により、対面でイベントが実施できない期間もありましたが、2020 年には佐賀県の地方紙「佐賀新聞」と協力し、佐賀県の肝炎対策の歩みをまとめた「世界初！？まるまる一冊佐賀 “肝” 聞（さがかんぶん）」を発行しました。WEB では全頁を公開しています。他にも佐賀県内の肝 Co. や患者さん達の写真投稿企画も掲載していますので、当センターの HP よりぜひご覧ください（図 3）。

13 年目の世界肝炎デー

今年は 2024 年 7 月 27 日（土）に佐賀市のショッピングモール　ゆめタウン佐賀において、イベントを開催し（図 4）、約 1200 名の方にご参加いただきました。テーマに「Liver ！全ての肝臓を健康に！」を掲げ、肝がん予防のために重要な①肝炎ウイルス検査を受ける、②陽性の場合は精密検査を受け、早期に治療を開始する、③脂肪性肝疾患のリスクを正しく知り、早期受診や生活習慣を見直すことをわかりやすく県民の皆様に伝えるために、様々な企画を実施しました。

幅広い世代へアプローチ

これまでの活動が実を結び、佐賀県内では高齢者を中心に肝炎ウイルス検査の受検率は上昇してきていますが、課題は残っています。特に男性 40 ～ 60 歳代の働き世代での受検者数は低迷しています。そこで働き世代への直接的なアプローチだけでなく、家族や周囲の方からも受検を勧めてもらう、また将来の肝疾患

写真1　ちびっこゲームコーナー、　写真2　謎解きクイズ、　写真3　トークショー「肝臓専門医×管理栄養士×アスリート」、　写真4　「知って肝炎」スペシャルトークショー

写真５　ボランティアスタッフと一緒に

を予防するために幼少期からウイルス性肝炎について学んでもらえるよう、幅広い世代にアプローチを行いました。未就学児向けの「ちびっこゲームコーナー」、小学生以上を対象とした「謎解きクイズ」、肝炎に関するアンケートや肝疾患の啓発グッズ等が当たる抽選会を実施し、多くの方に楽しんでいただくことができました（写真１，２）。イベント後も家族や周囲の方と肝炎について考えるきっかけになるよう願っています。

ステージから県民の皆さんへ

ステージイベントでは医師が医学的知識を解説する講演スタイルの市民公開講座形式ではなく、県民の皆さんが自分事として真剣に、しかし楽しみながら学べる企画を考えました。

●トークショー「肝臓専門医×管理栄養士×アスリート」（写真３）

佐賀市に拠点を構えるプロバレーボールチーム SAGA 久光スプリングス株式会社の所属アスリートである石井優希さんをお迎えし、普段の生活で気を付けていることなどをお聞きしながら、肝臓専門医より佐賀県の肝疾患の現状、肝臓の働きや病気、検査の重要性について解説しました。また後半は管理栄養士が登壇し、簡単にできるバランスのいい食事として佐賀のご当地グルメ「シシリアンライス」を実演しました。

●「知って、肝炎」スペシャルトークショー（写真４）

芸能界等で活躍中の大使・スペシャルサポーターが参加して、肝炎に対する普及・啓発活動を行っている厚生労働省肝炎総合対策推進国民運動事業「知って、肝炎プロジェクト」の一環で、アイドルグループ HKT48 のメンバーにお越しいただき、肝臓専門医と肝 Co. である看護師と共に、肝炎ウイルスの特徴や検査について解説を行いました。トークショーを聞いて、実際に肝炎ウイルス検査を受けた方もいらっしゃいました。

佐賀県民が佐賀県民のために

その他にも佐賀県出身のお笑いコンビによるステージやクイズ大会、地元の高校生による吹奏楽部の演奏が行われました。会場で行った無料肝炎ウイルス検査には多く方に足を止めていただき、最終的には 67 名の方に受けていただくことができました。

また、当日は約 30 名のボランティアスタッフがブルーの T シャツを着用し、啓発活動を行いました（写真５）。ほとんどが佐賀県の肝 Co. で、施設や職種も様々ではありますが、「佐賀県から肝がんを減らすために活動したい」という熱い気持ちで集まっていただきました。他にも、医療に関心のある高校生・専門学校生、肝 Co. のお子さんにもご参加いただき、若い力を存分に発揮して、イベントを盛り上げてくれました。

新たなアプローチ

このような対面式のイベントのみならず、2022 年からは当センターの管理栄養士がメニューを監修し、佐賀市内のレストランで提供する「コラボキャンペーン」を展開しています。

健康にいい食事は薄味で野菜ばかり、あまりおいしくないという一般の方のイメージを払拭し、生活習慣病の改善に役立つバランスのよい食事を実際に食べてもらうという目的でスタートしました。

数か月かけて管理栄養士とレストランのスタッフが何度も相談・試作を行い、佐賀県の食材を使用し、「シシリアンライス」など佐賀県のご当地グルメをアレンジしたオリジナルメニューを開発しました。2024 年は 7 月 28 日から約 1 か月間、4 店舗で提供を行い、合計 438 食の売り上げを記録しました(図５)。「ボリュームがあるのにカロリーが抑えられていて驚いた」「噛み応えがあり、自然にゆっくり食べられた」等の好評の声を多数お寄せいただきました。

これまでの対策が功を奏し、「佐賀県は肝炎対策に力を入れている」という印象が県民の皆さんにも定着していると感じています。しかし、県民一人ひとりが具体的に肝炎について知る、検査や治療に行く、という次のステップに進むにはさらに後押しが必要です。

肝炎デーのイベントは肝疾患センターや肝 Co. の存在を知ってもらう重要な機会になっています。直接、県民の皆さんの顔を見ながら情報を伝える、実際に味わってもらう等の体験が県民の皆さんの受検や受診の後押しになると信じ、これからも頑張って参ります。